

東海カーボンが「追加料金システム」を導入 価格は引き上げへ

日本の黒鉛電極メーカー東海カーボンは年産9.8万トンの大手企業であるが、原料価格と電力コストの変動に合わせて黒鉛電極の価格を変動させる「追加料金システム」の導入を決めた。

ニードルコークス（以下NC）は黒鉛電極の重要な原料であるが、2017年以降、中国国内の需要の急増、リチウム二次電池負極材への利用から来る需要増などにより、1年間で450米ドル/トンから3,200米ドル/トンへ価格が高騰した。NCコストは黒鉛電極価格の40～44%を占めることから、今回の「追加料金システム」の導入により原料コストを電極価格に適切に反映させ、安定な利益を得ることを目的として導入することとした。

(ICCから引用)